

# 麻酔科／集中治療部

## ■ 1年次の研修目標

本院における初期研修では2ヶ月の手術室での麻酔研修が必修であり、選択により1ヶ月の集中治療研修が可能である。麻酔を研修する目的は2つある。1つは、手術に参加することによって、手術医療の実際を知り、現代医療における手術の役割を理解することである。もう一つは、気道確保や人工呼吸、ライン確保、モニター機器による患者監視といった基本的手技を集中的に学ぶことである。集中治療研修では、術後患者を中心に重症患者の管理を経験する。

- 麻酔科医、外科医、看護師、臨床工学士らの協力体制で成り立っている手術室業務に参加することで、チーム医療のあり方を学ぶ。
- 手術が患者にとって最も大きな精神的、身体的ストレスのひとつであることを理解し、周術期の患者への適切な対応を学ぶ。
- カルテ閲覧、患者からの病歴聴取、主治医との話し合いにより、麻酔管理に必要な情報を集め、記載することが出来る。
- 麻酔準備を通して、気道確保、人工呼吸、循環管理に必要な用具とその準備に習熟する。
- バッグアンドマスクによる気道確保と人工呼吸、気管挿管（困難気道症例を除く）、静脈ライン確保、動脈ライン挿入、経鼻胃管挿入の手技に習熟する。
- 身体徴候、モニター機器による観察を通して、バイタルサインの的確な把握、患者の生理状態の正確な評価が出来る。
- 人工呼吸器、シリンジポンプ、各種モニター機器などの医療機器の取り扱いに習熟する。
- 劇薬あるいは毒薬に分類される薬剤の安全な投与方法を学ぶ。
- 術後患者がたどる経過を知り、適切な術後管理のための指示が出せる。

## ■ 2年次の研修目標

麻酔領域の2年次ローテーションとしては、手術室における麻酔研修と集中治療部における集中治療研修の選択が可能である。共に最小単位1ヶ月からの研修を受け入れている。

### 麻酔研修

2年次麻酔研修では1年次研修の研修目標に加え以下のことを目標とする。

- ① 様々な気道確保法を学ぶ
- ② 硬膜外麻酔法を学ぶ
- ③ 困難気道症例への対処法を学ぶ。
- ④ ハイリスク症例、緊急手術の麻酔計画を学ぶ。
- ⑤ 危機的出血への対処法を学ぶ。
- ⑥ 開心術、移植手術などの高度な麻酔管理を学ぶ。
- ⑦ 中心静脈カテーテル挿入法を学ぶ。
- ⑧ エコーガイド下神経ブロックを学ぶ。

麻酔研修では様々な麻酔管理を偏り無く経験出来るように配慮しているが、特に2年次では各自の興味や 将来の進路に合わせて特定の領域を研修することも可能である。例えば以下のような症例も研修、経験することが可能である。

- ・ 日帰り麻酔

デイサージャリー診療部における麻酔管理。日帰り麻酔の実際を学び、気管挿管以外の気道確保法や末梢神経ブロック、中心静脈カテーテル留置（PICCを含む）などを研修、経験できる。

- ・ 電気痙攣療法麻酔

精神科患者に対して行われる電気痙攣療法の麻酔管理を多く経験し、電気痙攣療法に関連する全身管理に習熟する。

- ・ 心臓麻酔

開心術や大血管手術の麻酔管理を経験することにより、肺動脈カテーテルや経食道心エコー法などの侵襲的モニター、急性期における循環作動薬の使用法を学ぶ。

- ・ 移植麻酔

肝移植、肺移植の麻酔管理を重点的に経験することにより、合併症を有する重症患者の全身管理に習熟する。

- ・ 小児麻酔

小児症例を経験できる。

## ■ 集中治療研修

集中治療研修では以下のことを目標とする

- ①重症患者の病態把握ができる。
- ②病態に応じた人工呼吸器の設定、人工呼吸器からの離脱が実践できる。
- ③各種モニター、心エコーを用いた循環動態の把握が出来る。
- ④気管支ファイバースコープを用いた気道管理が行える。
- ⑤各種血液浄化の原理と適応を理解する。
- ⑥重症感染症に対する診断、治療の方針を立て、実践できる。
- ⑦敗血症に対する治療方針を立て、実践できる。